
隣のミー子

花子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣のミー子

【Nコード】

N2429T

【作者名】

花子

【あらすじ】

俺とミー子の奇妙な日常

(前書き)

こんな平凡な一日に幸せが隠れています。

ねえ・・・私の事嫌い？

なんて隣の家のミー子が擦り寄ってくる。

別に嫌いな訳じゃない。顔も小さくて目もぱっちり、サラサラのポップスタイルも問題ない、俺的にはちょっとぽっちゃりしていて抱きこちがよさそう。

でも俺達も17歳になり子供の時とは違う。

現にミー子には彼氏がいるじゃないか？

なんで日曜日に彼氏じゃなく俺と一緒にいる・・・おかしいだろう。

「康太お腹空いたからご飯作って・・・」

なんで俺が、自分の家帰れ・・・と思いながらも立ち上がる・・・すると

「私、康太のオムライスが食べたい。フワフワのオムライスね」

俺は仕方なく台所に立ちオムライスを作り出す。

「卵3個割ってよくかき混ぜといて・・・」

ミー子が手伝える範囲を野菜を切りながら指示する。

みじん切りにした玉ねぎとピーマンを炒めながらミー子の様子を窺う。

なんか卵の殻・・・入ってなきやいいけど・・・

完成したオムライスをミー子の前に置いてやるとスプーンで一口頬張る。

なんかハムスターみたいだなと思って見ていると

「おいしいーオムライスは康太の作ったのが一番だね」

なんて可愛いことを言っつて満面の笑みを浮かべる。

「食べてばかりいるとデブになって彼氏に振られるぞ」

意地悪を言っつと・・・ミー子は途端に泣き出した。

「デブになっつても康太には関係ないもん、彼氏だっつてだいが前にデブは嫌いだっつて

振られたもん、痩せて見返してやるもん」

そう言っつてオムライスを泣きながら頬張っつている。

痩せるっつもりの奴がそんなに食うか？

俺なら今のままで十分だと思っつう。

オムライスを食っつてお腹が膨れたら眠っつてしまった。

俺は片付けを終えてからミー子をベッドに運んで布団を掛けてやる。

オムライスのお礼に触れるだけのキス

ミー子のファスト・キスの相手は俺だ。ミー子は気付いてないけど・

俺はいつまでこんな事を続けるのか？

彼女でも作るのかな・・・きっとミー子のことを優先してしまうから無理かな・・・

早く気付けよ・・・俺の気持ち・・・

猫みたいなミー子

後少しだけ待ってやる・・・

(後書き)

なんとなく書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2429t/>

隣のミー子

2011年5月23日06時14分発行